

平成28年度 豊かなむらづくり全国表彰事業 東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

～ 自分たちの集落は、自分たちで守っていこう！！
しずかに まじめに こつこつと ～

受賞団体：農事組合法人入方ファーム（福島県白河市）

◆むらづくりの背景・経緯

入方地区は、白河市の東部中山間地域に位置し、かつては極めて不整形の田畑が幾つかの沢沿いに分かれ、加えて水田は天水を利用したため池に頼るなど極めて生産性が低い状況であった。また、入方地区の全戸が第2種兼業農家であるため、十分な水管理、保全管理に手が届きにくい側面があり、自分たちが高齢になったとき、土地、すなわち地域の財産は誰が守っていくのかという意見が持ち上がり、「自分たちの集落は、自分たちで守っていこう！！」という気運が高まった。これを具現化するため、「入方機械利用組合」、「入方農事研究会」、「入方集落営農組合」が中心となり、入方集落の営農の方向性について検討を行い、集落全戸参加による法人化を模索し話し合いを重ね、信頼関係を紡ぎ、「入方ファーム」を設立して全集落員参加型の営農を機軸にむらづくりを進めることとなった。

◆むらづくりの内容

○農業生産面

組合員の農地や農業機械などを相互で管理し合い、かつ、提供した作業協力に対して、適切な賃金を支払うといった方法をとっている。このため、農業機械の共同利用等によるコストの低減等が図られ農家経営の安定に大きく寄与している。水の管理についても一元的に的確に行うことが可能となり、直播栽培の安定生産に大きく寄与している。さらに、高齢化等により荒れてしまった農地を積極的に再生することとし、これまで約2haの耕作放棄地の解消を図り、大豆栽培の圃場として活用している。

また、地元保育園児を招いたミニトマトの収穫体験など、年間を通して様々なイベントを開催し、消費者や住民の交流拠点ともなっている。



水稻直播栽培

○生活・環境整備面

「入方ファーム」は、地域農業を守るだけではなく、地元自治会が実施する地域行事等の実行・支援組織として活躍している。具体的には「どうらんぶち」等の伝統行事、地域の美化運動、防災活動など多岐にわたる。こうした活動の中で地域のつながりを強め、集落の活性化を図っている。

地元の伝統行事の継承や都市の子どもたちとの交流などによりさらに活性化が図られ、その充実感・達成感がさらなる意欲の向上という形で地域に元気と結束力をもたらしている。



「数珠くり」と「どうらんぶち」